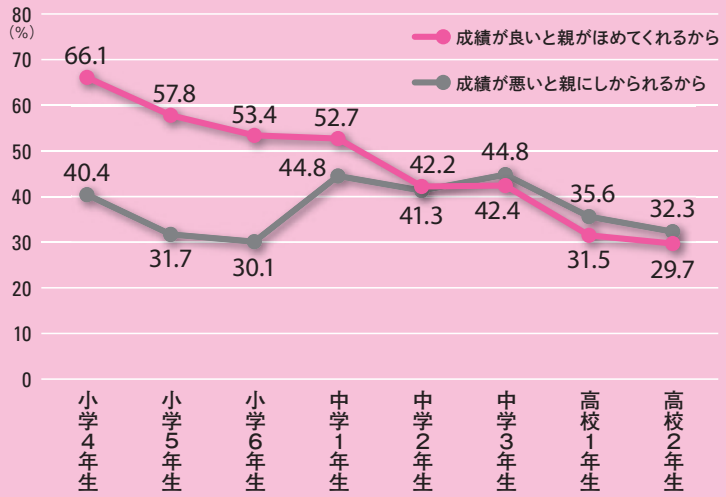
特集

# 生徒の心に火をつける

生徒が主体的に前に進んでいけるようにするために、
教師は生徒にどうかかわっていけばよいのだろうか。
生徒の心についた火が燃え続けるために、
教師に出来ることはどのようなことか。
今号は、教師が常に考え続けているこの問いに、
正面から向き合いたい。

## 「ほめられるから」勉強する子どもは減少
## 中学生で「しかられるから」勉強する子どもが増加

**Q.あなたが勉強しているのは、どうしてですか**




＊「とてもそう」＋「まあそう」の%
出典／ベネッセ教育総合研究所「第2回子ども生活実態基本調査」（2009年）

### 中学校時代の先生の思い出

「高校生未来プロジェクト」＊に
参加した高校生の声より

◎中学生の頃の私は、くよくよ悩むタイプで何事においても自信がありませんでした。そんな私に「焦る必要はない。失敗を恐れることはない。失敗してもいいから前向きに取り組みなさい」と声を掛けてくださいました。その言葉を聞いて、何だかふっと気持ちが軽くなりました。今、いろいろなことに積極的に行動できるのも、この先生と出会ったからだと思っています。

＊学びの意欲の研究として実施した高校生による
ワークショップ
http://benesse.jp/berd/hirakemirai/

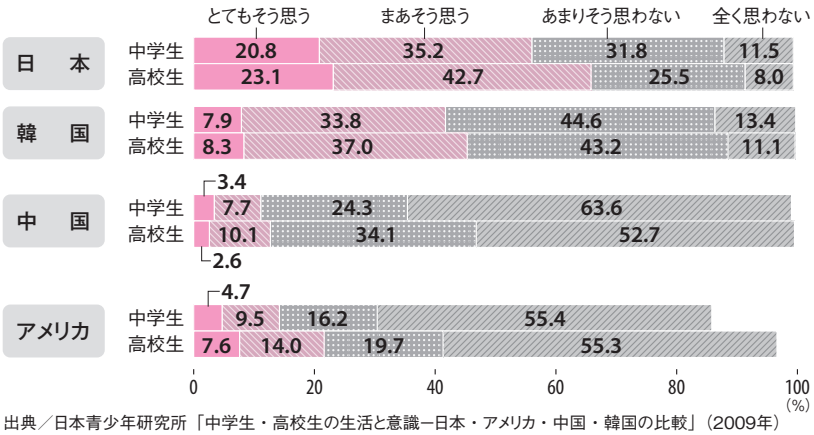
# 主体的に学びに向かいにくい今の中学生の心に火をつけるには？

生徒が主体的になれない要因をデータから探ると共に、P.6から紹介する学校事例を基に、生徒の心に火をつけるポイントをまとめた。

## データに見る中学生の意識

### 図1 諸外国に比べて、自信のない日本の中高生

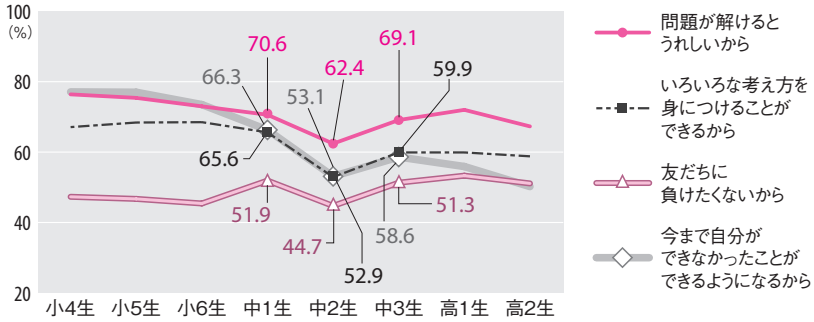
Q. 自分はダメな人間だと思いますか




出典／日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識―日本・アメリカ・中国・韓国の比較」（2009年）

### 図2 学習に前向きな動機を見い出す生徒が中２で減少

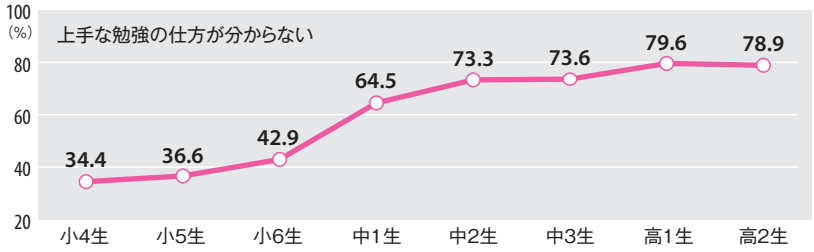
Q. あなたが勉強しているのはどうしてですか




＊「とてもそう」+「まあそう」の%

### 図3 上手な勉強の仕方が分からなくなる中学校進学時

Q. 次の項目に当てはまりますか




＊「とてもそう」+「まあそう」の%

図2・図3出典／ベネッセ教育総合研究所「第2回子ども生活実態基本調査」（2009年）

調査結果を見ると、中学生が学びに向かいにくい実態が浮かび上がる。まず、日本の中高生の自己肯定感は、海外の中高生と比較して低い（図１）。また、学習に対する前向きな気持ちが中学校時代に低下することがうかがえる（図２）。更に、中学生になると、勉強の仕方が分からないと感じる生徒が急増する（図３）。中学校時代に自己肯定感を高めたり、勉強の仕方が分かったりすると、生徒は主体的に学びに向かうかもしれない。

# 生徒の心に火をつける

## 課題解決の糸口

### 生徒の心に火をつけるために、学校と教師はどうかかわるか


**自己肯定感を持たせる**

生徒一人ひとりの誕生日に「おめでとう」と言う ▶P.11
福井県永平寺町永平寺中学校　宮下洋一校長

間違えるのは当たり前という意識を浸透させる ▶P.12
福井県永平寺町永平寺中学校　竹内文江先生

大勢の先生がいつも見てくれているという安心感 ▶P.22
三重県四日市市立楠中学校　井上弘之先生

**自信を付けさせる**

みんなの前で活躍する「デビュー」の機会をつくる ▶P.8
宮城県名取市立増田中学校　川口哲央先生

リーダーとして責任を持たせ、一人前として扱う ▶P.13
福井県永平寺町永平寺中学校　田上由美先生

生徒自身が頑張ったと思うことを認め、具体的に褒める ▶P.20
三重県四日市市立楠中学校　佐藤正倫校長

**目標を持つ意義を伝える**

教師自身が妥協せず、高い目標を持ち続ける ▶P.9
宮城県名取市立増田中学校　大森浩美先生

授業の魅力や活動の意義を熱く語る ▶P.16
東京都世田谷区立太子堂中学校　冨士道正尋校長

**方法を明確に示す**

結果だけでなく、各生徒の努力のプロセスを大切にする ▶P.18
東京都世田谷区立太子堂中学校　宍戸弘子先生

生徒個々の学習のつまずきに丁寧に対応する ▶P.22
三重県四日市市立楠中学校　上原啓江先生

トライ＆エラーを繰り返し、自分で考える機会を与える ▶P.25
株式会社川崎フロンターレ　川口良輔さん

**知りたい意欲を引き出す**

授業の中で生徒オリジナルのものを引き出し、生徒同士で共有し合う ▶P.6
宮城県名取市立増田中学校　佐藤俊隆校長

最後に発展的な内容を話し、余韻を残して授業を終える ▶P.17
東京都世田谷区立太子堂中学校　加藤清春先生

模範解答のない問題と向き合うことの楽しさを体感させる ▶P.24
ハタモク代表　與良昌浩さん


## 編集部から

今号では、教師一人ひとりが生徒とどう向き合っているかを丁寧に取材し、紹介しています。

「自己肯定感」を育み、「自信」を持たせることは、生徒が前向きに行動するための土台となるという考えは、どの先生も大切にされていました。その上で、目標を持ち、目的や意義を伝え、具体的な手順を丁寧に示すことで、生徒の意欲を引き出そうとしていることも分かりました。例えば、「失敗」はキーワードの1つ。永平寺町永平寺中学校の竹内文江先生が語るように「失敗しても大丈夫」と思える環境をつくることが前提となりますが、生徒はトライ＆エラーを繰り返すことによって、新たな目標を見付け、更に、前に進もうという意識を強めていくのでしょう。

学校現場には、学びだけでなく、生徒が前向きに取り組めるためのさまざまな工夫があります。正解はもちろん1つではありません。次ページ以降に紹介した先生方の実践を、読者の先生方それぞれが解決策を探る糸口として参考にしていただければと思います。

ベネッセ教育総合研究所
情報編集室室長　小泉和義